

子どもの心の叫び CDに

都の元人権専門委員

都の子どもの人権専門委員として、子どもの悩みに耳を傾けてきた武蔵村山市の認可保育所「村山中藤保育園」の元園長、高橋保子さん(79)が、親に助けを求める子どもたちの心の叫びを歌にしたCDを制作した。いじめや体罰など、子どもたちを取り巻く不幸な出来事が相次ぐなか、高橋さんは「親御さんたちに『自分の子どもは大丈夫かな』と振り返るきっかけにしてほしい」と話している。

「言葉」そのまま曲にのせ



制作したCD「ねがい」を披露した高橋さん（武蔵村山市役所で）

タイトルは「ねがい（心の叫び）」。3番まである歌詞には、「友達の前も先生の顔もみんな見たくない」「やっぱり父さん母さんでないと安心して話せないと思うから聞いて欲しい」など、高橋さんの脳裏に焼き付いている子どもたちの言葉が、そのまま書きつづられている。高橋さんは、2011年12月までの16年間、武蔵村山市の人権擁護委員を務めた。このほか、都の子どもの人権専門委員も6年間務め、毎週、電話や手紙を過

とほできて、家庭に入り込んで問題を解決することはできない。2年前に退任した後、「話を聞きつづけない」という気持ちが強くなった。今春、一人でも多くの子どもに楽しい学校生活を送ってもらいたいと、子どもの心の叫びを保護者

に投げかけるCDの制作を決めた。それは、「両親が子どもの異変に気づき、思いやることが、悩みの軽減につながるのでは」と考えたからだ。こうした取り組みに、武蔵村山市立第一小の元校長で不登校の子どもの指導を

「ねがい」は、法務省を通じて、各都道府県の法務局に送付するほか、同市内の小中学校に配り、保護者会などで活用することが検討されている。高橋さんは「お父さんお母さんは、子どもの思いを受け止めてほしい」と呼びかけている。

まだ信じられない

伊豆大島 伊豆大島（大島町）で死者36人、行方不明者3人を出した台風26号による土石流被害から、16日で3か月となった。遺族らは自宅跡で犠牲者の冥福を祈った。

「まだ信じられない。母や姉夫婦から電話があるんじゃないかと思う」。大島町の会社員、里見直規さん(48)は涙声で語った。里見さんは今回の災害で、母の大石静の江さん(74)と、姉の市村初美さん(53)、初美さんの夫の君和さん(61)を失った。里見さんは、大石さん

土石流3か月

と市村夫妻のそれぞれ、け、「まだ見つかってい家族の元に帰ってきてほしい」。一方、被害の集中した増地区で、福島県猪苗代藤弘一さん(33)ら3人がなごを振る舞った。3人は、被災した島でた知人に声を掛けられ、を支援してもらった恩返り、当日は住民らと一なご餅やあんこ餅などた。

一也を確保できず、計画が白



佐藤のよ、長く、いき



市議選用掲示板的の右半分が知事選分が置かれたポスター掲示場（15日、町田市立国際版画美術館で）

知事など連続3選挙場、市議選（2月16日告示、23日投票）も行われる町